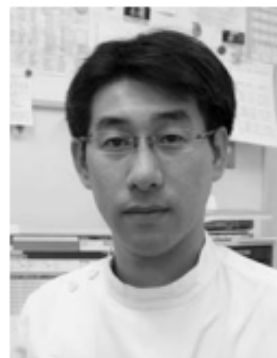


## 「インフルエンザ予防接種の時期になりました」



小児科部長

山田 博

山香病院だより vol.78

こんにちは。今回はインフルエンザとその予防接種の紹介を致します。

インフルエンザはインフルエンザウイルスに感染することによっておこる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、悪寒、腹痛など、いわゆる風邪と異なり全身の症状が突然現れるのが特徴で、日本では例年12月から3月頃に流行します。

インフルエンザ感染が原因となつて毎年、数千人から数万人の人が亡くなつています。高齢者や呼吸器疾患、糖尿病などの基礎疾患を持つている人はリスクが高く、特に注意が必要です。小児においても毎年急性脳症での死亡が報告されています。また流行が入試と重なるため受験生も社会的な意味で注意が必要と

なります。

2013年と2014年のシーズンに流行すると予想されているインフルエンザのタイプは、①A型H1N1 ②A型H3N2(いわゆる香港型) ③B型の3種類で、今年の予防接種もこのタイプを標的にしたワクチンです。①A型H1N1は2009年に「新型インフルエンザ」として世界中で大流行したウイルスですが、それ以降も例年流行しています。しかし多くの人が免疫を獲得していった結果、2011年4月からは通常の季節性インフルエンザとして取り扱うようになりました。

インフルエンザの予防接種は通常、生後6か月～3歳未満は0・25mlを2回、3歳以上～13歳未満は0・5mlを

2回、13歳以上は0・5mlを1回接種となっています。ただし1歳未満の乳幼児に対する予防接種効果は明らかでなく、赤ちゃんの感染予防のためには周囲の家族が積極的に予防接種をすることの方が大です。

また接種回数については年長児では1回接種と2回接種とで効果が無いとの報告もあり、世界保健機構(WHO)や米国では9歳以上で1回接種となっています。しかし、一方で2回接種の方がやはり有効との報告もあり、13歳以上でも喘息などの基礎疾患がある人や受験生には2回接種を薦める場合があります。接種の回数については、かかりつけ医とよく相談されてください。2回接種の場合は3～4週ほど間隔を空ける方がより有効です。

予防接種の効果は接種後2週間から現れ、約4か月程度で薄れてきますので、受験生は11月上旬に接種するのが理想的です。

杵築市に住民票があり、①65歳以上の人 ②60～64歳で基礎疾患のある人 ③生後12か月～中学修了までの人には1人1回回の接種のみ助成があります。実施期間、金額等の詳細は、広報きつき10月号にてご確認ください。